

20250214 ～探求学習の取組～ 一中の研究発表会に参加して（１）

昨日、小平第一中学校の研究発表会に参加させていただきました。

研究テーマは、

「自ら課題を立て、解決する力を身に付けさせる指導法の工夫」

～探求学習の取組を通して～

でした。「探求学習」とは、簡単にいうと「自ら問いを立てて、それに対して応えていく学習」です。教師が立てた問いに対する正解を探すのではなく、こどもの追究心を大切に、学びをすすめていきます。この「探求学習」は、2022 年から高校で本格的にスタートしました。

（高等学校学習指導要領）

探求学習が注目される背景には、未知の課題に対応するためには、指示待ちでなく自ら考える態度が大切だという考え方があります。日本の産業界も、これからの人材に期待する力として「主体性」「実行力」「課題設定・解決能力」を上位に挙げています（日本経団連 2018 「高等教育に関するアンケート結果」より）。

皆さんもご存じと思いますが、本年度（R6）から渋谷区では、「シブヤ未来科」を新設し、探求学習を本格スタートしました。文科省の「授業時数特例校制度」を利用し、小中学校の午後の授業時間を中心にこれまでの総合的な学習の時間 70 時間を 150 時間に拡大したのです。渋谷区の五十嵐教育長は「すべての子どもたちには、自ら学ぶ力が備わっていて、環境さえ整えばその力が発揮される」と熱く理念を語っています（2024 年 3 月談話）。

探求学習とそれによって培われる力に対する注目度は、大学入試をも変えつつあります。

「探求学習」を入試の選択肢に用意している「探求型入試」の登場です。単に与えられた問

題をスマートに解く力より、大学で何を学び、どう社会に貢献していきたいか、明確な意志とビジョンをもった学生を大学側も求め始めているということでしょう。

探究学習の学びは、「総合的な学習の時間」とほとんど同じスパイラル構造です。「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」です。この追究の中で、自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が2周、3周とスパイラルに繰り返されていきます。

さて、肝心の一中の研究発表会についてです。一中は探求学習を

「1 ガイダンス」「2 『タネ』さがし」「3 テーマ決定」「4 情報収集」「5 仮説を立てる」「6 情報の活用」「7 まとめ」

の7つのステップで指導計画をつくっていました。そして、その学びをすすめるための「心理的安全性」を学級に構築します。それは、各教科等の学びの中でしっかり培います。まさに「集団なくして学びなし!」ということですね。

1年生はステップ4の「情報収集」について、2年生はステップ7の「まとめ（発表）」、3年生はステップ3の「テーマ決定」の場면을全学級授業公開していただきました。私は2年生の発表を中心に参観させていただきましたが、

「宇宙人に遭遇したら」

「黒板のきれいな消し方はあるのか」

「侘び寂びについて」

など、生活の何気ない場面だったり、テレビ番組などからの刺激だったり、意外にそもそもの動機が素朴なものもありました。しかし、探求ですから、先行の調査・研究・実践事例を調べるなど、持論を客観的に検証する姿勢はさすが中学生という感じでした。

(次号につづく)